第 15 回「水辺に親しむ親子教室」実施報告

若山　朝子
柾　　一成
吉田　謙一

1　はじめに

今年度の水辺に親しむ親子教室は、こどもたちに実際に川の中に入って川や自然とじかにふれあい、その感触を体感してもらうことに重点をおいた。川の流れや、そこに棲む生きものの生活を直接感じることで川に興味をもち、水辺が好きになり「身近な川や水を大切にしたい」と自然に考えることができるような豊かな心を育むことを目的とした。幸区内の小学校２校より要望があり、夢見ヶ崎小学校について６月に、日吉小学校について 10 月に実施した。

2　日時

夢見ヶ崎小学校：平成 14 年 6 月 14 日(金)
日吉小学校：平成 14 年 10 月 25 日(金)

3　場所

矢上川矢上橋付近（幸区矢上 11 地先）の河原
(夢見ヶ崎小学校より徒歩 10 分程度、日吉小学校から徒歩 30 分程度)

4　対象

夢見ヶ崎小学校４年生 70 名：２クラス…５～６人の班が各クラス６班、７班の計１３班
日吉小学校４年生 105 名：３クラス…６人の班が各クラス６班の計１８班

5　内容

水質の測定（１mクリーンメジャーによる透視度、COD パックテスト）及び川に入っての水生生物観察（底生動物、魚類など）

6　当日の流れ

11:00　公害部スタッフ集合事前準備開始
13:15　所長より始めの言葉
13:20　川の水質について
　　透視度計、COD パックテスト
14:30　生きものについて
　　川に入ってみよう どんな生きものがいるかな
14:30　川から上がり川原に集合
　　まとめと講評
15:00　終了

7　評価と反省

7.1 日程について

毎年環境月間の６月開催ということで日時が組まれているが、今年は早く梅雨入りしたこともあり、当日の天候が心配された。雨天用に別のメニューを準備することと、予備日を別の日に設けることとどちらがよりよいだろうか悩ましいところではあるが、雨天延期の日程を設定しておくほうが、希望にも添うことができ、実施の準備面でも簡易である。

7.2 場所について

今回は開催校の近くに矢上川があったため、川原で実際に川の水、川の生物を見ることが出来た。実際に川に行ってみて実施できたことは、大変良かった。

7.3 当日事前準備について

川の中にダンボールや機械や大きなゴミがたくさん落ちていた。事前の河川中の清掃についてはどうするとよいか。

川の生きものの授業のために、午前中に投網を打って魚を捕まえ、水槽の中に展示した。ウキゴリやハゼ、ボラ、アユ、コイなどの泳ぐ様子を子供たちに観察してもらうことができた。水槽は運搬と安全の面からアクリル製が望ましい。バケツなどでは魚の色や形をよくみることができないので、必ず水槽を用意したい。なお、事前調査の際には会場を汚さないように少し別の場所へ網を上げるなどの配慮が必要である。

今回、会場の範囲となる河原の一番下流側に黒板を設置したが、会場とする河原範囲の中央部分に黒板を設置したほうが、集合・注目と各自実験の繰り返しをより効率的に行えた。

7.4 内容について

(1) COD パックテストについて

今回は児童実験用の机を用意せずに、川原のコンクリートの上で行った。児童が川の水を汲むことに多少時間が取られたが、おおむね手際よくやれたように思う。ただ、水質測定の正確さを求めるならば、子供一人一人が

ばらばらで行っているパックテストの反応時間をそろえるなどの工夫も可能である。

(2)　1mクリーンメジャーによる透視度について

透視度計の数が児童一人に１本渡せるだけの数がなかったので、各班（５～６人）に対して２本ずつのわりあてとした。透視度計を持って支える、水を汲んできて透視度計に入れる、中をのぞいて目盛りを読む、など子供たちなりに分担して協力しながら測定を進めていたので、割り当て数的にはとくに問題はなかったと思われる。

(3)　使用する道具や資料の配布・回収について

各班ごとに使う道具（透視度計、手付きﾋﾞｰｶｰ、白バット、パックテスト穴開け用針、標準色表）については、配布しやすいように事前にセットしておくことも一つの方法である。その他に、一箇所にまとめておいて使用する都度、子どもに適宜配布・回収する方法もあり、より効率的であるとおもわれる。野外実習の場合は特に冊子等ぬれてしまうと困るような資料類はすべて終了後に配布するほうがよい。なお、職員の手元に使う道具１セットを準備しておくことでその後の説明や指導が容易となる。会場が広く、参加者数が多い場合は説明の声が届きにくいので、メガホン、マイク等が必要である。また、児童の座る向きは川へ向けた方が実演・説明がしやすい。

(4)　川の生きもの観察について

児童たちが上履き、ズックなどを履いて川の中に入って、生きものの採取を行った。金曜日に行ったために、週末に持ち帰って洗っている児童個人の学校用上履きを使用することができたのでほぼ児童全員が川に入ることが実現された。保護者の方も授業参観日だということもあり、大勢見に来られたが、はじめは「こんな汚いところに子供たち入るのかしら･･･いやだわ。」という雰囲気であった。しかし、子供たちが楽しそうに川に入って生きものを捕まえたり、虫眼鏡や顕微鏡で熱心に観察する様子を見てからは、一緒に観察したり、子供たちの写真をとったりとおおむね好評であった。

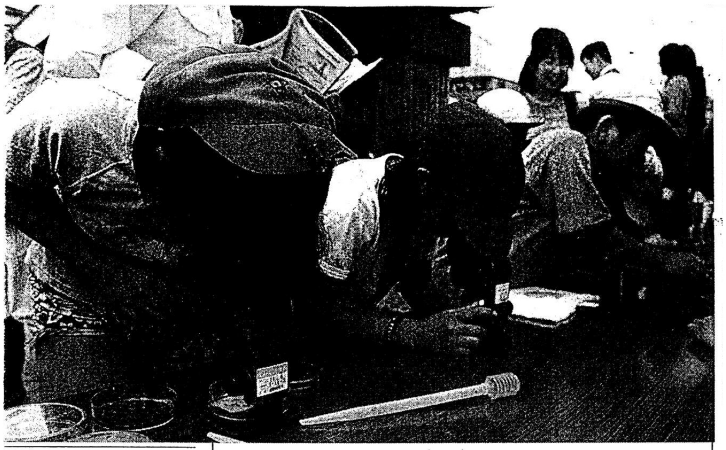
(5)　川に入るための注意

川には急に深くなったり、つるつるすべるところがあったりして危険も伴う。職員が胴長靴であらかじめ水に入って深さや水流などをチェックし、深いところへ行ってしまう子供が無いよう安全監視を行った。河川内に入れる担当人員が少ない場合や水深や流速などから危険が予想される場合には、ロープによる区域の設定等の準備が必要である。

(6)　まとめについて

水質について簡単な講義を行った。職員による流速測定、pH や DO、水温の測定の様子のデモを見てもらうこともできた。黒板を研究所から持って行き、川での授業の雰囲気を作ったことで、子供たちは集中して落ち着いて研究所職員の話に耳を傾けられた。子供たちの整列については、学校の先生にお願いしたことも子供たちが落ち着いてすごす助けになった。公害研究所の職員は必ずしも児童の扱いになれていないので、先生にお願いできるところはお願いして、当日の進行を行うとよい。

平成１４年６月１４日実施「水辺に親しむ親子教室」
東京新聞掲載記事（６月１５日朝刊）



ホッと！かわさき
和みの風景

水辺で体験学習

「わぁ、いた！」「動いてる！」。幸区の矢上川にかかる矢上橋近くで十四日、「水辺に親しむ親子教室」（市公害研究所主催）が開かれ、夢見ケ崎小四年生児童と保護者約百人が、水生生物の観察など体験学習した＝写真。

児童たちはまず水質検査を行い、川の汚れや濁り具合などをチェック。次に網を片手に川に入り、泥をすくって捕った水中の底生動物や魚類を顕微鏡や虫眼鏡で観察した。

初めて見るヒルの一種やミズムシなどを気味悪がりながらも、「家に持って帰る？」と冗談を言い合う親子も。県の絶滅危ぐ種「ウキゴリ」を捕まえた児童は、公害研究所員の「大事な魚を守るためにも、みんなで川をきれいにしてね」という言葉に力強くうなずいていた。

平成１４年６月１４日実施「水辺に親しむ親子教室」

朝日新聞掲載記事（６月１５日朝刊）

街で

矢上川の環境 小学生が調査

幸区

川崎市幸区矢上の矢上川左岸で14日、水辺に親しむ親子教室が開かれた。近くの夢見ケ崎小の4年生約70人が、どんな生き物が生息しているかなどを調べた。

子供たちはビーカーで川の水をすくって、川の汚れや透視度を調べた。その後、川に入って網で川底の泥をすくい、シャーレに移して虫めがねや顕微鏡で生き物を探した＝写真。

資料と見比べながら、「イトミミズがいた」などと、歓声があがった。

県内では生息が珍しくなってきたハゼ科の魚ウキゴリを取った子もいた。

調査の結果は「ひどく汚れている」だった。

市公害研究所が、川で体験学習することで、川の仕組みを知り、川を大切にしようとの心を育んでもらおうと毎年開いている。